保健領域部

令和８年度　東京都小学校体育研究会　実証授業

東京都小学校体育研究会　研究主題
「自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習」
－子供が学びを深めていくための教師の在り方について－



授業日	令和８年１１月５日（木）午後１時３０分～
会　場	練馬区立練馬第三小学校　体育館
授業者	教諭　綿貫　恵理　　主任養護教諭　　藤並　智美
単元名	第５学年　けがの防止
	「けが防止プロジェクトⅣ　～５年生のけがを減らそう～」
講師	国立市教育委員会
	指導主事　金井　麻衣子　先生

Ⅰ　東京都小学校体育研究会の研究

1　研究の全体構想図

子供たちの現状と課題

学　習　指　導　要　領

社会の背景・要請

研究の成果と課題（令和７年度）
研究主題：自ら学び続ける力を，仲間と共に身に付けていく体育学習

〇成果

「単元、一単位時間、運動（活動）している時」の３つの視点で「学びのサイクル」を具現化できた。

子供が自ら学び続けるために教師はどのようにかかわりが求められるかを具体化できた。

子供が「やってみたい」「できるようになりたい」と思える課題設定が学びのサイクルを回す起点になることを明らかにした。

〇課題

子供主体の学習づくりとそれを支える学習環境デザインの一層の具体化。

子供の停滞をどう見取りどうかかわるかなど、教師の支援の充実。

令和８年度　研究主題
自ら学び続ける力を，仲間と共に身に付けていく体育学習
―　子供が学びを深めていくための教師の在り方について　―

研究の目的と方針

【研究の目的】

自立した学習者としての資質・能力を育てる視点に立ち，子供が仲間と共に学び合いながら，自ら学び続ける力を身に付けることができる，質の高い深い学びを実現する体育学習の在り方を追究する。

【研究の方針】

〇子供たちが課題を見いだし、仲間と協働しながら課題解決に向かう学びの在り方、多様な子供を包摂する学習環境デザイン、教師と子供による学習評価（形成的評価）の充実等、昨年度の課題に対する考えや改善策について，授業研究を通して明確にする。

〇各領域部会の正副部長が主体的に研究活動を運営すること，領域を超えて議論を深め，協働的に研究を推進することで，東京都の小学校体育科のさらなる発展を目指す。

〈基礎研究・調査研究〉

〇学習指導要領や中教審答申等の資料を収集･分析し，共通の知見を得る。

〇子供の現状や課題，教師の実践上の課題等について各種調査を実施してつかむ。

〈夏季合同研究会〉

〇「双方向コミュニケーション方式」による体育フェス及び分科会の実施。

〇今年度の基礎研究及び研究の方針について参加者と部会が双方向で意見交換し、一緒になって考え、議論する中で、よりよい体育学習の在り方を追究する。

〈実　践　研　究〉

実証授業等を実施し，子供の変容や活動状況のデータを基に授業を評価して検証する。また，研究協力校等における実践研究の報告を受けて検証する。

研究発表大会による研究の評価・検証

２ 令和８年度の研究ついて

（1）研究主題

「自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習
―子供が学びを深めていくための教師の在り方について―」

（2）研究主題について

本研究会では、一人一人の子供が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、一人一人の豊かで幸せな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成するための研究を推進してきた。

具体的には、「自立した学習者の育成」を学習指導のゴールとして描き、資質・能力を育むことをねらいとして体育の授業づくりを行うこと、学習の中で運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通して「自ら学び続ける力」を身に付けていくこと、仲間と共に学び合うことによって、自分一人では達成することができなかった質の高い課題解決につなげることを中心に研究を進めてきた。

昨年度は、「自ら学び続ける力」を育むためには、学習における「学びのサイクル」を具現化することが必要と考え、「単元、一単位時間、運動（活動）している時」の３つの視点で示すことができた。また、子供が自ら学び続けるために教師はどのようなかかわりが求められるかを具体化したことや、子供が「やってみたい」「できるようになりたい」と思える課題設定が学びのサイクルを回す起点になることが分かった。

一方で、子供が主体となる学習環境デザインの具体化が十分ではなかったこと、子供の停滞をどう見取りどうかかわるかなど「学びのサイクル」を回せていない子供への教師の支援がさらに必要であること、子供の「自ら学び続ける力」が身に付いたかの検証方法や評価については、各部会で差異があることなどが課題として挙げられていた。

これらの課題から見えてきたことは、教師がどのように子供たちとかかわるのがよいのかを明確にしていくことである。そこで、研究主題を引き続き「自ら学び続ける力を、仲間と共に身に付けていく体育学習」とし、今までの副主題であった「運動の楽しさや課題解決の喜びを味わうことを通して」を前提としながら、新たな副主題として「子供が学びを深めていくための教師の在り方」と変え、昨年度までの成果と課題を踏まえた新たな研究の視点を設定して取り組む。

（3）研究の方針

①「学びのサイクル」「資質・能力」「深い学び」の整理

昨年度、全領域部会において「学びのサイクル」の子供の姿が具体的に示された。しかし、主体的に学びに向かう子供の減少は依然として問題視されており、子供たちが課題を見いだし、仲間と協働しながら課題解決に向かう学びの在り方については今後も検討が必要である。また、「学びのサイクル」は目標到達のための手立て（過程）であるのか、「学びのサイクル」の質自体を高めることが目標なのかについても共通認識することができなかった。さらに、「自ら学び続ける力」を上位目標と据えつつも、「資質・能力」を到達目標として示すことができたかについても疑問が残った。改めて「学びのサイクル」「資質・能力」「深い学び」の考え方について整理していく。

② 多様な子供を包摂する学習環境デザイン

昨年度の研究を通して、子供主体の学習づくりを考える中で「学びのサイクル」が停滞・飽和した子供への教師のかかわり方がまだ不十分であることが挙げられた。「学びをデザインする高度専門職としての教師」が示され、学習環境デザイナーとしての教師の在り方を考えることが更に求められている。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に実現する視点からも、多様な子供を包摂する学習環境デザインをさらに具体化していく。

③ 教師と子供による学習評価（形成的評価）の充実

「自ら学び続ける力」をどのように見取り、どのように評価するかについては、領域間で共通理解が十分でないことが課題として挙げられる。学習者である子供自身が自己の学びを評価し、学習改善に生かすことは 「学びのサイクル」を回す上で重要であると考える。そこで、教師と子供による学習評価（形成的評価）の充実を図る。

Ⅱ 保健領域部の研究

1　保健領域における研究主題の捉え方

（1）「自ら学び続ける力」を身に付けた子供の姿

①健康に関する課題を自分事として捉え、課題を見付け、仲間との対話や協働を通して、課題を解決する方法を見付けることができる。（学びのサイクル）

②授業で学んだことを生活の中で実践し、その経験を振り返ることで新たな課題を見いだし、学びを更新し続けることができる。（学びのサイクル・深い学び）

③授業と生活を往還しながら、自ら健康の保持増進に向けて主体的に判断し、行動する資質・能力を身に付けている。

（2）子供が学びを深めていくための教師の在り方

①子供が健康課題を自分事として捉えられるよう、生活経験と学習内容を結び付ける場を設定する。

②一人一人の考えを引き出し、仲間との対話や協働的な活動を通して考えを広げたり深めたりできるよう支援する。

③学んだことを生活の中で実践し、その成果や課題を振り返って次の学びへとつなげられるよう、授業と生活を往還する学習過程を意図的に構成する。

2　研究の重点

（1）「学びのサイクル」「資質・能力」「深い学び」の整理

＜学びのサイクル＞

昨年度の研究を踏まえ、「単元」「一単位時間」「子供が活動している時」の３つ場面で子供が学びのサイクルを回していく姿を目指す。

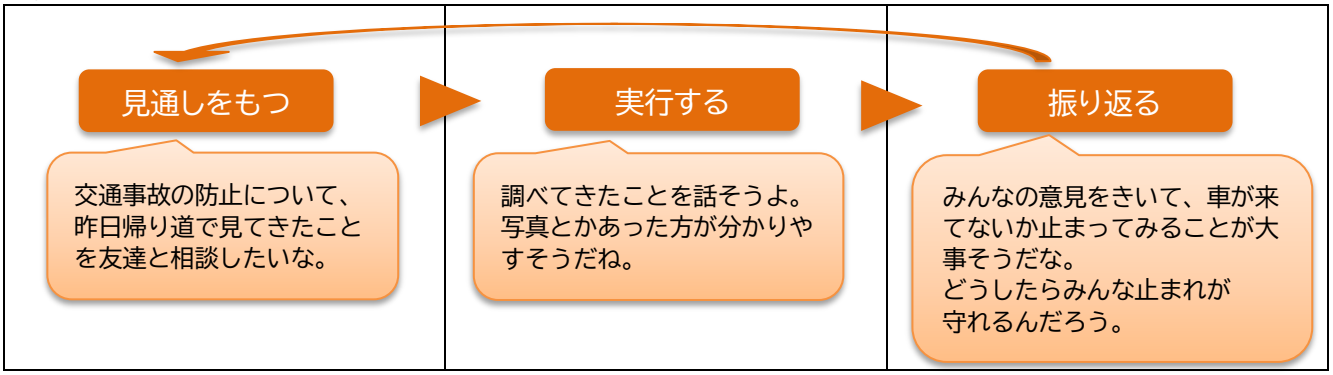
①単元の学びのサイクル　　第５学年「けがの防止」全５時間

時	第１時	第２時	第３時	第４時	第５時
段階	学習との出会い	学習課題を見いだす	学習課題を解決する	学習を振り返る	
	「けがを防止するにはどうすればよいか」を考える。 単元の学習課題を決める。 課題を解決したい意欲を高める。	学習課題を見いだし、選択する。 学習課題の解決のために、調べたり、まとめたりする。		調べたことをまとめ、友達と共有する。	・けがの手当 ・学習したことを生活に生かす

②一単位時間の学びのサイクルを回している子供の姿

導入	展開	終末
学習課題を見いだす	学習課題を解決する	学習を振り返る
前時を振り返り、本時の学習内容を確認する。 どの課題についてどうやって取り組もうかと見通しをもっている。	自分で選んだ「けがを防止する方法」について調べたり考えたりする。どのような方法で、誰と取り組むかを自分で選択し、行動している。	学習を振り返り、調べたことや考えたことを、他者に伝えたり、実践してみようとしたりする。

③活動している時の学びのサイクルを回している子供の姿



＜資質・能力＞

自らの健康の保持増進に向けて主体的に判断し、行動できるよう、知識及び技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等の三つの柱を授業と生活の往還を通してバランスよく育む。単元の評価規準は、この三つの柱に沿って設定する。

＜深い学び＞

事故やけがの原因から、それらを防止する方法を考える。けがを防止する方法をまとめ、概念として新たな知識の習得とする。その課題を解決する過程を「学び方」とし、生活等の中で新たな課題に出会ったとき、学び方を生かし課題解決に向かえることを「深い学び」と捉える。これを更新し続けられることが「自ら学び続ける力」であると考える。

○一般的な学習の流れ

知識　けがの原因となるもの
・人の行動
　心の状態や体の調子
・周りの環境

＋

知識　けがを防止する概念
・危険の予測
・的確な判断をもとに安全に行動する。
・環境整備やルール

→ けがを防止する方法を考える

↓

生活場面で生かしていく

○今年度の学習の流れ

知識　けがの原因となるもの
・人の行動
　心の状態や体の調子
・周りの環境

→ けがを防止する方法を考える

課題を解決する過程・学び方

→ 知識　けがを防止する概念
・危険の予測
・的確な判断をもとに安全に行動する
・環境整備やルール

本単元における学びが深まっていく姿の例

資質・能力の深まり

＜生きて働く＞

知識及び技能

他の学習や生活場面でも活用できる

〈中核的な概念の深い理解〉
健康課題を解決する方法を理解する

一体的な高まり

〈複雑な課題の解決〉
友達と協働する中で、情報や考えを共有し、その健康課題を阻害する原因から解決する方法を見付ける

＜未知の状況にも対応できる＞

思考力、判断力、表現力等

未知の場面でも課題を解決できる

深まり

実行 / 見通 / 振り

質の高まり

実行 / 見通 / 振り



〈個別の知識や技能〉
健康課題に対する原因を理解する

一体的な高まり

〈個別の思考力、判断力、表現力等〉
課題を発見する
健康課題に合った解決する方法を考える

実行 / 見通 / 振り

「知識及び技能」から「思考力，判断力，表現力等」への一方向の矢印とならないよう配慮が必要である。

（２）多様な子供が「自ら学び続ける」ための学習環境デザイン

学習の進め方にかかわること	１子供自らが学びを進めていける学習過程	自分が選んだ課題を解決していく時間を設ける。
	２学習との出会い	自分の生活とかかわりのある事象を提示し、自分事として考えることのできる学習との出会いができるように工夫する。
ものにかかわること	１まとめスライド	どのように「けがを防止する方法」を見付けていくのかを考えるための手立てとする。子供の実態に合わせて学習を進めていけるようスライドを工夫する。
	２振り返りカード	子供がその時間で学んだこと振り返り、次時の学びにつなげられるようにする。
	３場の設定	フィールドワークやインタビューなどの活動を取り入れ、自分に必要なことを調べる方法を子供が自ら選択する機会があることで、学びを自己調整していくことができるようにする。
人にかかわること	１担任教諭と養護教諭の役割分担	養護教諭は専門的なアドバイスを行い、担任は支援の必要な子供へのアドバイスをするなど、役割を明確にして授業を進める。

（３）教師と子供による学習評価（形成的評価）の充実について

①形成的評価について

ア.教師による学習評価

単元で育成を目指す資質・能力の実現に向け、教師は子供のつまずきや伸びなど学習状況を把握する。個々の子供の見取りをさらに充実させるため、発言や記述から思考の変容を捉え、その結果を授業の進め方に生かすとともに、子供自身が学びを調整して深めていけるようにする。

イ.子供による学習評価

自己評価を振り返りカードに毎授業記入し、自分の学習の振り返りを次時に生かし、学びのサイクルを回していくことで学習内容の理解を深められるようにする。

②形成的評価から総括的評価へ

本時など単元中盤では、教師と子供が共に学びを調整するための形成的評価として位置付け、子供の学びの変容を見取りながら指導と評価の一体化を図る。単元後半に、単元を通した学びの成果を総括的評価として捉える。総括的評価は、単元の評価規準に基づき実施するものとする。

３　夏季合同研究会より

（１）夏季合同研究会で明らかになったこと

①保健領域の研究の概要（研究主題の捉え方・学びのサイクルと深い学びの関係・学習環境デザイン・教師と子供による学習評価）について、参会者全体で共通理解を図ることができた。

②第２～４時を自分が選んだ課題を解決する時間とする課題解決型の学習過程や、子供の実態に応じたスライド３種類の教材・教具の工夫が、多様な子供が「自ら学び続ける」ための手立てとして有効であるとの意見があった。

（２）研究課題として残ったこと・実証授業への反映

①「けがの手当て」の学習の位置付けが検討課題として残った。単元全体のバランスを見ながら第５時に位置付けるとともに、けがの防止（環境・行動への働きかけ）と手当て（万一のときの対処）の関係を子供が理解できるよう、指導計画を工夫する。

②これらのことを実証授業に反映し、指導計画を再編成する。

４　学習指導案

（１）実証授業実施校等
練馬区立練馬第三小学校
第５学年２組　　児童：２９名　指導者：教諭　綿貫 恵理　　主任養護教諭　藤並 智美

（２）単元名　　けがの防止　「けが防止プロジェクト NⅢ　～５年生のけがを減らそう～」

（３）単元の目標

知識及び技能	交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがとその防止、自然災害から身を守ること及びけがの手当について理解できるようにするとともに、簡単な手当をすることができるようにする。
思考力，判断力，表現力等	けがの防止や自然災害からの身の守り方について、課題を見付け、その解決方法について考え、判断したことを表現することができるようにする。
学びに向かう力，人間性等	けがの防止や安全な生活の大切さに気付き、自他の健康や安全の保持増進に向けてすすんで取り組もうとする態度を養う。

（４）単元の評価規準

知識・技能	①事故やけがは、人の行動と周りの環境が原因で起こることについて、理解したことを言ったり書いたりすることができる。 ②交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であることを言ったり書いたりすることができる。 ③けがをしたときの適切な対処の仕方や簡単な手当の方法を理解するとともに、簡単な手当を行うことができる。
思考・判断・表現	①交通事故や学校・地域でのけが、犯罪被害、自然災害から身を守るための課題を見付け、原因と関連付けながらけがを防止する方法を考え、説明したり伝え合ったりしている。
主体的に学習に取り組む態度	①けがの防止や安全な生活の大切さに気付き、自ら課題を選択して解決方法を調べたり、生活の中で実践しようとしたりするなど、すすんで学習に取り組もうとしている。

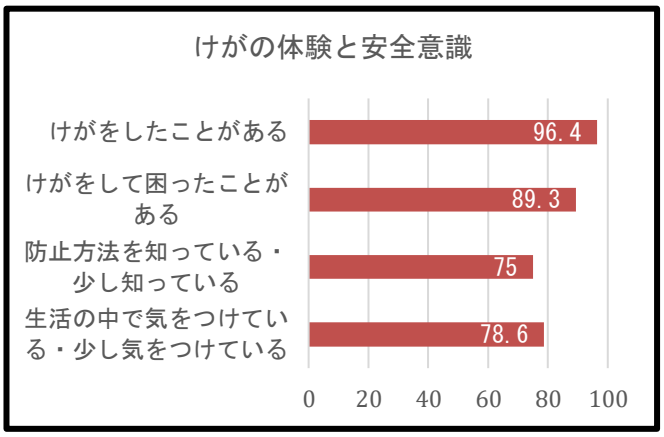
（５）子供の実態・検証方法
①主観的な実態
本学級の子供は、明るく活発で、休み時間には元気に体を動かして遊んでいる。その反面、遊んでいる最中にけがをする子供が多い。しかし、けがをしてもその原因を「自分の行動」や「周囲の環境」から多角的に捉え直す子供はほとんどいないのが現状である。
これまでの保健学習を通じ、自分で課題を決めて調べ考える力は身に付きつつある。子供が自分に合った方法や資料を選択して課題解決する場を設定し、自ら学びを調整できる仕組みを取り入れることでより、けがの防止についての理解が深まり、子供の学びの変容や、生涯にわたって健康で安全に生きる基盤となる資質・能力の育成につながると考える。

②客観的な実態
ア．調査概要
・調 査 名 ：「けがの防止と安全な生活に関するアンケート」
・実施方法：Google Forms にて実施
・対 象 者 ：２９名（回答者：２８名、有効回答率 96.5%）
・設問内容：資料参照

イ．調査結果と考察

○けがの体験と安全に対する意識・自己評価

「自分はけがをしたことがありますか」の設問に対し、96.4%が「したことがある」と回答し、「けがをして困ったことはありますか」の設問でも 89.3%が「ある」と回答している。ほぼすべての子供が日常の中でけがをし、生活上の不便や痛みを経験している実態がうかがえる。一方で、「けがを防止するための方法を知っていますか」の設問では、「知っている（32.1%）」と「少し知っている（42.9%）」を合わせた肯定的な回答が 75.0% 、「けがをしないように気をつけて生活していますか」の設問に対し、「気をつけている」は 53.6%、「少し気をつけている」は 25.0%と肯定的な回答が 78.6%となり、「あまり気をつけていない・気をつけていない」と答える子供も 21.4% 存在し、日常生活における防止行動に対する意識には個人差が見られる。



○けがや事故の原因（「人の行動」と「まわりの環境」）の理解度

「けがをする原因は、人の行動と○○が関わっている」の設問において、正答である「まわりの環境」を選択した子供は 82.1%であった。おおむね概念としての理解は図られているものの、「運」と回答した子供が 10.7%おり、運のせいにして主体的な防止行動につながりにくい意識をもつ子供も一部存在する。

具体的場面における原因の識別において、自転車事故の短文事例における識別では、「人の行動＝スピードの出しすぎ」「まわりの環境＝地面の水たまり」を正しく選択できた子供が多い一方で、「止まれの標識」や「タイヤのスリップ」を環境要因として混同・誤認して選んでしまう子供も見られた。

下校時の危険場面（２つ選択）の設問では、「一人で人通りの少ない裏道を歩いて帰った（人の行動）」が 89.3%、「空き家や高い草むらが多く、まわりから見えにくい場所（まわりの環境）」が 85.7%と高い正答率を示しているが、よく分かっていない子供も 10%以上いる。

○場面に応じた安全な行動と環境づくり、応急手当の理解

・校内安全の行動と環境づくり

校内での安全な行動について、正答である「周囲の状況をよく見て、危険に早く気づき、的確な判断のもとに安全に行動する」を選択した子供は 50.0%にとどまる。「階段をいつでもすばやく動けるように気を付ける（32.1%）」や「授業に遅れそうなときは安全に走る（17.9%）」など、焦りや迅速さを優先した不適切な行動を容認・選択してしまう子供が 半数（50.0%）を占めている。

校内の「安全な環境づくり」において、正答である「危険な場所がないか点検し、校舎や遊具などの施設・設備を整える・改善する」を選択した子供は 32.1%にとどまった。一方で、「廊下に掃除用バケツが置いてあったら、よけやすいように横に目立つ色を...」という対症療法的な選択肢を選んだ子供が 57.1%に達しており、「危険そのものを取り除く・未然に防ぐ」という環境づくりの概念理解に大きな課題が見られる。

・交通安全、道路・自転車での正しい行動

「道路横断時の一時停止と左右の安全確認」を選択した子供が 96.4%にのぼり、交通安全の基礎的ルールは非常に高く定着している。

・自然災害から身を守る、水の事故防止

「決められた心得を必ず守る」を選択した子供は 78.6%であるが、「雨の後に川の様子を見に土手に行く」という危険な行動を選んだ子供が 17.9%おり、好奇心や心配から危険に近づいてしまう実態が示唆される。

・応急手当の知識

「鼻血が出た時の適切な手当て」として正しい「下を向いて小鼻をつまむ」を選択できた子供は 67.9%（19 名） であった。しかし、「上を向いて血がたれないようにする（17.9%）」という昔の誤った風習的対処法や、「わからない（14.3%）」と答えた子供が合わせて 32.1% 存在している。

③検証方法

授業前に行ったアンケートを授業後、１月に行い学習の定着の確認を行い、正答率の変化で学習内容の定着を検証する。

（６）研究主題を実現するための手立ての工夫

①選んだ課題を解決していく学習過程（自己選択・自己調整）

本単元では、第２時～第４時を課題解決の時間とし、子供たちが主体的に学ぶ環境を整えた。まず、「学校や地域でのけがの防止」「交通事故の防止」「犯罪被害の防止」「自然災害から身を守る」の４つの中から、自分が取り組む課題を１つ選択するようにした。第２時では、ゴールに向けた学習計画を立てて見通しをもせた。さらに、第２時と第３時に「ブラッシュアップタイム」を設定し、子供たち自身が自分の学びを振り返り、計画や内容を自分で調整できるようにした。第４時では、それぞれが考えた防止方法を学級全体で共有し、そこからけがを防止をするために、危険の予測、的確な判断をもとに安全に行動する、環境やルールの整備が必要なことを理解できるようにした。

②出会いの工夫

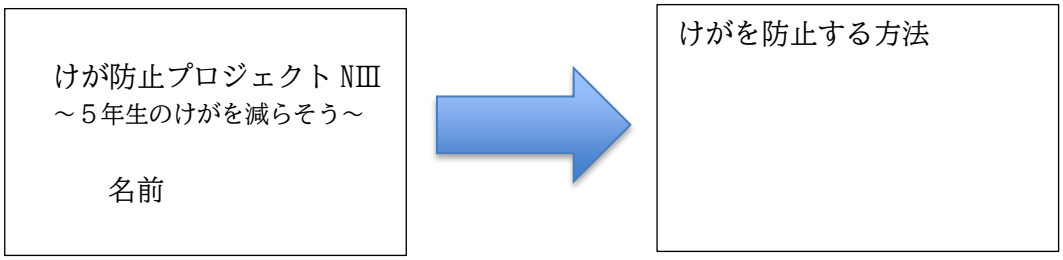
事前アンケートの結果を活用し、「けがをしたことがある」「けがをして困ったことがある」と思う子供が多いことに対して、「けがを防ぐ方法を知っている」「防ぐために行動している」子供の割合が少ない実態を提示し、課題意識を高めた。また、昨年度の校内のけがの数やけがのあった場所、学区内での犯罪被害や交通事故があった場所を提示し、自分事として課題を捉えやすくした。また、見通しをもって主体的に取り組みやすくするために、第１時に学級全体で単元を通して解決する学習課題を決めるようにした。

③選択できる教材・教具・内容の設定

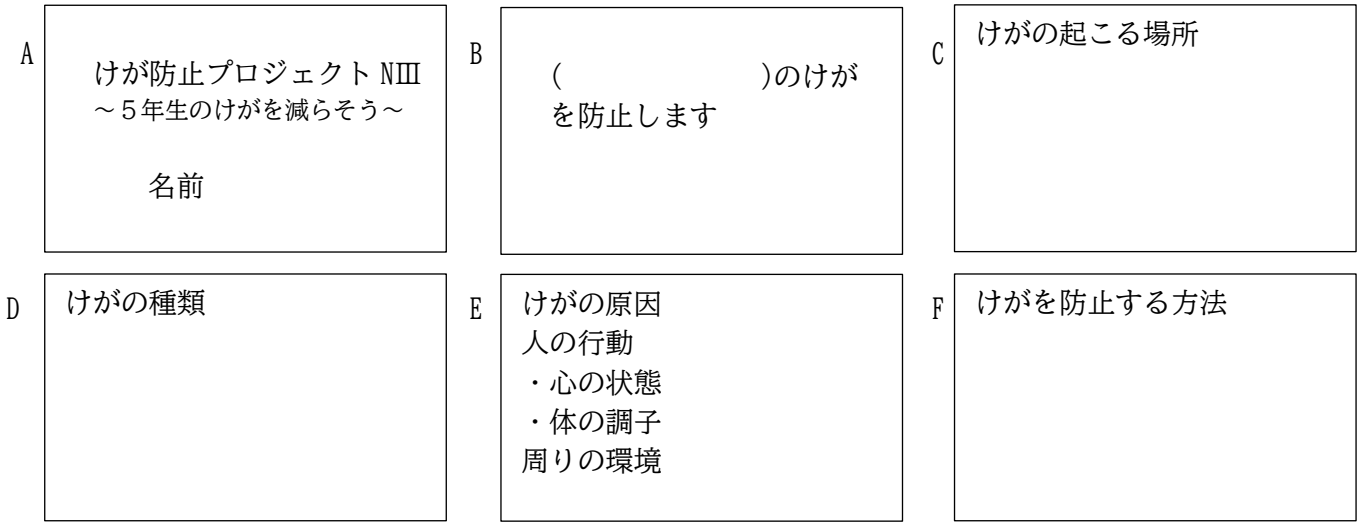
子供が実態や学習の進め方に応じて、教材・教具や調べ方、学習する内容を選択できるようにした。学習スライドは、自由に学習を進めるもの、学習の流れに沿って進めるもの、内容や例を参考にしながら進めるものなど、複数の種類を用意した。また、学校内フィールドワークやインターネット、教科書、インタビューなど、課題解決に向けた調べ方も選択できるようにしたことで、自分に合った方法で学習を進め、必要に応じて見直しながら学びを自己調整できるようにした。

（ア）選択制スライド

パターン①　自由に制作



パターン②　スライドに学習の流れを提示



パターン③　スライドに学習の流れを提示、内容を選択

A

けが防止プロジェクト NⅢ
～５年生のけがを減らそう～

名前

B

(　　)のけが
を防止します

C

けがの起こる場所







D

けがの種類



E

けがの原因
人の行動
・心の状態
・体の調子
周りの環境





F

けがを防止する方法

（イ）フィールドワーク

選んだ課題を解決するために、校内フィールドワークを行い、けがの起こりそうな場所の写真を撮影する。撮影した写真をもとに、けがを防止する方法について考えることができるようにする。交通事故や犯罪被害の防止、地域でのけがの防止など授業中に撮影できない場合は、家庭学習を活用し、写真を撮ってくるようにする。

（ウ）資料の提示

新聞や保健ニュース、書籍などの資料を用意し、けがの防止について様々な方法から選択して調べられるようにする。また、犯罪被害に関しては、警視庁ホームページより「犯罪情報マップ」「交通事故情報マップ」を引用し学区域内の情報を子供に提供する。

④担任・養護教諭の役割の分担、形成的評価の充実

学習の内容に応じて、役割を分担して指導を行う。形成的評価に対する教師の関わり方も役割に合わせて視点を変えるようにした。

担任教諭：授業の進行や子供の考えの共有等を行う。また、スライドにまとめたことをより深い学びにできるように声掛けを行う。

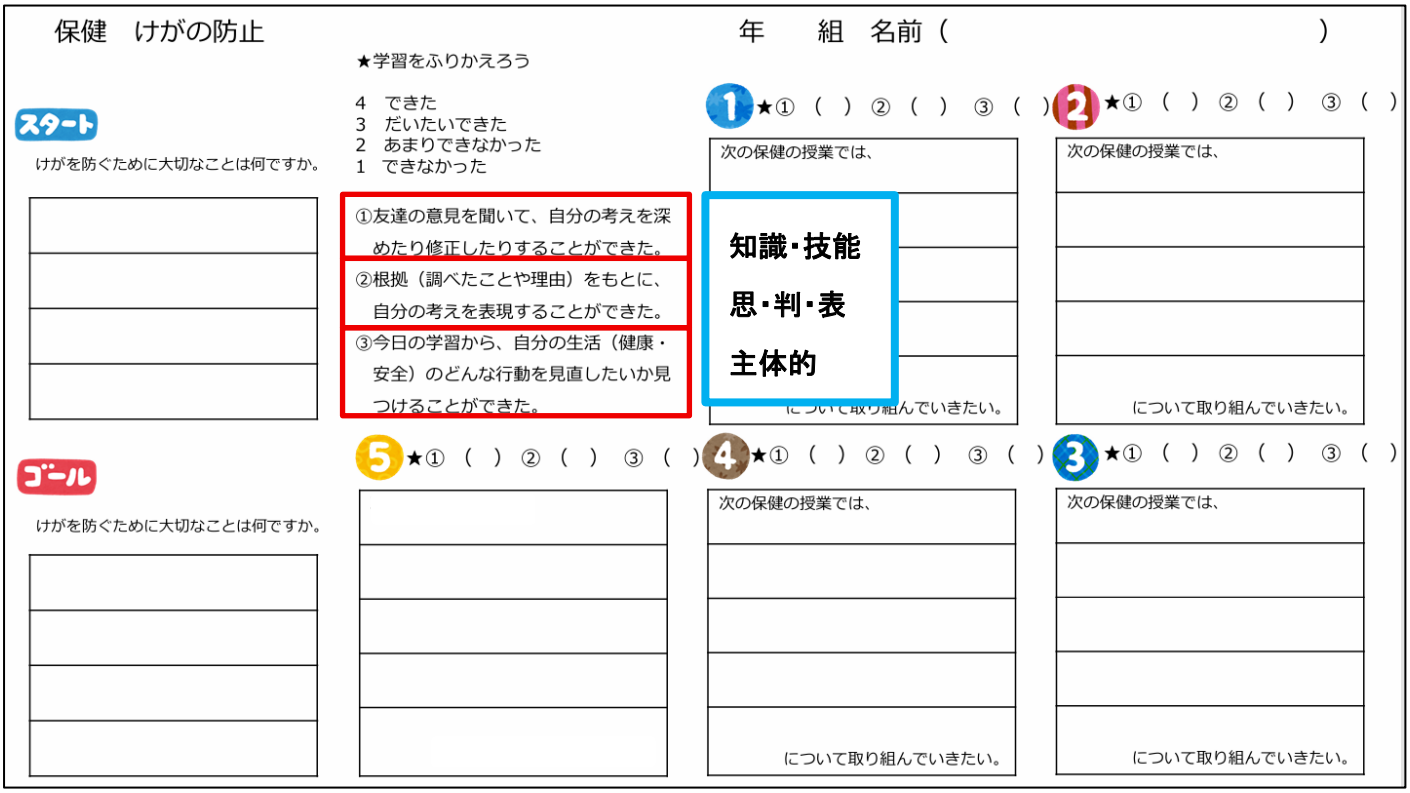
養護教諭：子供が正しい知識を得ることができているか専門的な視点でのアドバイスをする。けがの発生原因や防止する方法についての理解を深められるようにする。

※詳しくは、本時案及び資料の各時間の流れを参照

⑤振り返りカード

毎時間、自己評価を行い、その日の学習を振り返ることができるようにする。知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の能力・資質を評価するとともに、「次の保健の授業で取り組みたいこと」書き１枚にまとめるようにした。１枚にまとめることで単元を通して、自身の学習した形跡が分かるようにした。また、学習の導入と終末に同じ発問を設定することで、子供が学習前後の自分の考えを比較し、学習を通して得た知識や考えの変容を自覚できるようにした。教師は、振り返りカードにコメント(資料：各時の指導案振り返りを参照)を記入し、次時の学習につながるようにした。

振り返りカード



（7）学習過程

＜第５学年　保健領域　「けがの防止」＞※子供の姿・・・本単元における「自ら学び続けている」子供の姿

時	1	2	3　（本時）	4	5
段階	①学習との出会い ②単元を通して解決する課題を決める。	③自分が選んだ課題を解決する。		④友達とけがを防止する方法を共有する。	⑤けがの手当の方法を理解する。 ⑥自己の健康課題を解決する。
子供の姿	・けがの防止を自分事として考えている。 ・けがの原因には、環境とその人の行動があることを理解する。 ・単元を通して解決する課題を決める。	・自分が選んだ学習課題について、すすんで調べている。 ・調べたことをもとにけがの防止について、理解を深めている。 ・けがを防止する方法を見付けている。		・けがを防止する方法を友達に伝えている。 ・けがを防止する方法を共有し、けがの防止には、危険の予測、的確な判断をもとに安全に行動する、環境整備やルールが必要なことを理解する。	・けがの手当の仕方を理解している。 ・生活を振り返り、学習したことを自己の課題解決に生かしている。
学習活動	１．事前アンケートの結果をもとに学校内外で、けがをするところを考える。 ２．けがや事故は、どのようにして起こるかを考える。 ３．けがの原因について理解する。 ・人の行動と周りの環境が関わり合って起こること ・心の状態や体の調子が影響していること ４．けがを防止するための単元を通した課題を決め、達成するために何をすればよいのか考える。 ５．振り返りをする。	１．前時を振り返り、単元のテーマ、本時の学習内容を確認する。 ２．解決する自己の課題を決め、学習計画を立てる。 ３．スライドを見て、まとめ方を知る。 ４．けがを防止する方法を調べたり、考えたりする。 ○学校内フィールドワーク ○インターネット・教科書 ○インタビュー など ５．ブラッシュアップタイムに取り組む。 ６．振り返りをする。	１．前時を振り返り、学習計画を確認する。 ２．けがを防止する方法を考える① ○学校内フィールドワーク ○インターネット・教科書 ○インタビュー など ３．ブラッシュアップタイム① ４．けがを防止する方法を考える② ５．ブラッシュアップタイム② ６．振り返りをする。	１.前時を振り返り、単元のテーマ、本時の学習内容を確認する。 ２．けがを防止する方法を友達と共有する。 ３．けがを防止する方法について整理して、まとめる。 ４．振り返りをする。	１．単元のテーマ、本時の学習内容を確認する。 ２．けがをした時にどのように行動しているかを確認する。 ３．けがの手当の仕方を知り、実際にやってみる。 ４．大きなけがの場合の対処法について、考える ５．自己の生活を振り返り、課題を見付け、解決方法を考える。
家庭		自分が調べたいことに関係する場所の写真を撮影する。			
評価計画	知識・技能　①			②	③
	思・判・表	①	①	①	
	主体的				①

（８）本時の学習

①本時のねらい

○交通事故や学校・地域でのけが、犯罪被害、自然災害から身を守るための課題を見付け、原因と関連付けながらけがを防止する方法を考えることができるようにする。

【思考力,判断力,表現力等】

②本時の展開

学習活動	本時において特に焦点化する形成的評価の一例： ◎学びを深めている子供の姿（＋教師のかかわり＋養護教諭のかかわり） ☆配慮の必要な子供への支援 □評価規準
１．前時を振り返り、今日の学習計画を確認する。	○けがや事故は、人の行動や周りの環境が関わり合って起こることを確認し、自分の課題解決につなげる。
けがや事故を防止する方法について考えよう	
２．けがや事故を防止するための方法を考える① ＜調べ方＞ ○学校内フィールドワーク ○インターネット・教科書・保健ニュース ○インタビュー ○家庭学習で調べてきたこと　など ※個人で調べても、グループで調べてまとめてもよい。	◎「曲がり角になっているから車が来るのが見えない」「廊下を走っていると向こうから急に曲がってきた人をよけられない」など、けがの原因になる環境や人の行動に気付き、けがを防止する方法につなげようとしている。 ＋教師のかかわり：「その防止の方法は原因とつながっているね。」「他の場所との共通点はないかな」など価値付けたり、問いかけたりし、より考えを深めたり広げたりできるようにする。 ＋養護教諭のかかわり：けがの原因となる人の行動に心の状態や体の調子がどのように関わっているかを問い、考えを深められるようにする。校内のけがについての情報提供をする。危険の予測、安全な行動、環境整備がけがを防止する方法に入っているかを確認し助言をする。 ☆調べた原因を「具体的にどうすればよいか」とけがを防止する方法につなげられない子供には、「この前廊下を走ってけがをした人がいたよ」など、実際にけがをしてしまったことを具体的にイメージさせる問いかけをする。
３.ブラシュアップタイム①	○学びを深められている子供のスライドを提示する。
４．けがや事故を防止するための方法を考える② 課題が早く終わった子供は、けがを防止する方法の広め方を考える。	
５．ブラッシュアップタイム② ・友達と調べて分かったことを伝え合ったり、質問し合ったりする。 ・気付いたことをもとに、自分のスライドを修正する。	◎友達のスライドを見て、気付いたことをもとに自分のスライドを発表に向けて修正することができる。 ＋教師のかかわり：「○○さんのスライドは、けがを防止する方法と原因の人の行動と環境がリンクしていて分かりやすいね」など価値付けし、子供が相手に伝わりやすい表現を意識できるようにする。 □思考・判断・表現－①(観察、スライド)
６．振り返りをする。 今日の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	◎「友達と相談したことで、予測することも大事だと分かった」「次の時間は、友達の考えたけがを解決する方法をたくさん知りたい」など学習したことを振り返り次の学習につなげようとしている。 ＋教師のかかわり：「予測に気が付くのは素晴らしいね。自分のけがを防止する方法に生かそう」「自分のけがを防止する方法と同じところや違うところはあるのか考えながら発表を聞いてみよう」など振り返りカードにコメントを記入し、次時の学習につながるようにする。

資料
第１時
（１）本時のねらい
　○けがや事故は、人の行動と周りの環境が原因で起こることについて、理解できるようにする。
　【知識及び技能】
（２）本時の展開

学習活動	本時において特に焦点化する形成的評価の一例 ◎学びを深めている子供の姿（＋教師のかかわり＋養護教諭のかかわり） ☆配慮の必要な子供への支援 □評価規準
1.　事前アンケートの結果をもとに、学校内外でけがをするところを考える。	○これまでの生活を振り返って想起させ、これからの学習と結び付けられるようにする。 ○経験を踏まえ、けがや事故の防止を自分事として考えられるようにする。 ○養護：校内のけがのデータを提示し、身近なけがについて考えられるようにする。
けがや事故は、どのようにして起こるのだろう	
2.けがや事故は、どのようにして起こるかを考える。 発問：けがや事故は、どんなときに起こるのだろう。	◎「信号を守らない人がいて危なかった」「廊下を走っている人とぶつかりかけた」など、自身の過去の経験とつなげてけがについて考えている。 ＋教師のかかわり：「自分の経験から考えると具体的に考えられていいね」と価値付けたり、「友達の話も聞くといいよ」と情報や考えを広げられたりするような助言をする。 ＋養護教諭のかかわり：校内でのけがの具体例を上げ、子供が実際の場面を想起しやすくし、自分事として考えられるようにする。
３．けがや事故の原因について理解する。 発問：けがや事故の原因を整理してみよう ○環境 ○人の行動 ・心の状態 ・体の調子	○具体的なけがや事故の場面をもとに、原因について、考えさせる。 ☆個人で考えた内容が、班の話し合いに反映されるよう助言する。 ○けがや事故は、人の行動や周りの環境が関わり合って起こることを確認する。 ○養護：けがが起きる人の行動に体の調子や心の状態がどのように影響するかを例示する。 ☆具体的なけがや事故の場面を例示する。 □知識・技能―①（発言、観察）
４．けがを防止するための単元を通した課題を決め、達成するために何をすればよいか考える。 例：けが防止　完全行動プラン 学校のけがをなくそう計画 発問：目標を達成するために何をすればいいと思いますか。 →けがを防止する方法を考える。	◎「学校でけがをしたとき、とても痛かったから減らしたい」「交通事故は大きなけがにつながるし、友達が事故にあったら嫌だからからなくしたい」などけがの防止を自分事として捉え、課題を立てている。 ＋教師のかかわり：「目的があって課題を立てられていいね」「それをみんなに伝えることができたら学校でのけがを減らすことができるかもしれないね」など子供の意欲を促す称賛をする。
５．振り返りをする。 今日の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	◎「友達と相談したことで別の考えを知ることができた」「次の時間は、交通事故の原因について調べたい」など学習したことを振り返り次の学習につなげようとしている。 ＋教師のかかわり：「友達と意見交換すると考えが深まるよね」「交通事故の起こりそうなところはどこかな、どうすれば防止できるかな」など振り返りカードにコメントを記入し、次時の学習につながるようにする。

第２時

（１）本時のねらい

○交通事故や学校・地域でのけが、犯罪被害、自然災害から身を守るための課題を見付け、原因と関連付けながらけがを防止する方法を考えることができるようにする。

【思考力,判断力,表現力等】

（２）本時の展開

学習活動	本時において特に焦点化する形成的評価の一例： ◎学びを深めている子供の姿（＋教師のかかわり＋養護教諭のかかわり） ☆配慮の必要な子供への支援 □評価規準
１．前時を振り返り、けがや事故の原因について確認する。	○けがや事故は、人の行動や周りの環境が関わり合って起こることを確認し、自分の課題解決つなげる。
けがや事故を防止する方法について考えよう	
２．解決する自己の課題を決め、学習計画を立てる。 〈課題〉自分の解決したい課題を選択する。 学校や地域でのけがの防止 交通事故の防止 犯罪被害の防止 自然災害から身を守る方法 〈スライド〉 自分が取り組みたい学習スライドを選択する。 ①フリーなスライド ②あらかじめ項目立てされているスライド ③内容を選択して進めるスライド 〈調べ方〉自分で選択する。 ・学校内フィールドワーク ・インターネット・教科書 ・インタビュー ・家庭学習で調べてきたこと　など ※個人で調べても、グループで調べてもよい。	○交通事故・学校や地域でのけがの防止・犯罪被害の防止・自然災害から身を守るための行動について自分の解決したい内容から調べていくことを確認する。 ☆養護：課題が決められない児童に具体的な本人エピソードを話し、課題を見付けさせる。 ○調べたことは、スライドにまとめていくことを確認する。 ○調べる方法を問い、様々な方法があることを確認してから、それぞれ選択してよいことを伝える。 ☆「まずは課題をこの中から選んでみよう」など、順を追って、選択肢を提示し、選んで取り組めるように声掛けをする。
３．スライドを見て、まとめ方を知る。 交通事故の防止を例に学習の進め方を確認する。	○全体で、交通事故の防止について考えて、スライドにまとめる。
４．自分で選択した課題を解決するために、必要なことを調べる。 同じ課題を選んだ人同士で集まり、写真を撮ったり、友達と相談したりしながら考える。	◎「人目につかないところが危ない」など事故の原因となる環境や人の行動に気付き、事故を防止する方法につなげようとしている。 ◎「曲がり角になっているから車が来るのが見えない」「廊下を走っていると向こうから急に曲がってきた人をよけられない」など、けがの原因になる環境や人の行動に気付き、けがを防止する方法につなげようとしている。 ＋教師のかかわり：「なるほど原因は、これだったんだね」と価値付たり、「他にも原因はあるかな？」「どういう防止の方法があるかな？」と問いかけたりし、その仕組みをより深く理解する学びにつなげる。 ＋養護教諭の関わり：本人エピソードを基に、けがを防止する方法を考えられるようにする。 ☆調べた原因を「具体的にどうすればよいか」というけがを防止する方法につながらない子供には、「この前廊下を走ってけがをした人がいたよ」など実際にけがをしてしまったことを具体的にイメージできるような問いかけをする。
５．ブラッシュアップタイム ・友達と調べて分かったことを伝え合ったり、質問し合ったりする。 ・気付いたことをもとに、自分のスライドを修正する。	◎自分で調べたことや友達との情報交換などから得たけがの原因からけがを防止する方法を考える。 ＋教師のかかわり：「その防止の方法は原因とつながっているね。」「他の場所との共通点はないかな」など価値付けたり、問いかけたりし、より考えを深めたり広げたりできるようにする。 □思考・判断・表現－①（観察、スライド）
６．振り返りをする。 今日の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	◎「放課後に通学路について確認したい」「次の時間は、もっと友達の意見も聞いてみたい」など学習したことを振り返り次の学習につなげようとしている。 ＋教師のかかわり：「友達と意見交換すると考えが深まるよね」「実際の場所を見ると違う見方があるかもしれないね」など振り返りカードにコメントを記入し、次時の学習につながるようにする。

学習計画カード

①	②	③	④	⑤
けがの原因を知る。	自分の課題を決める。 けがを防止する方法を考える。	けがを防止する方法を考える。	調べたことを発表する。	けがの手当ての仕方を知る。

学習計画

＜解決するテーマ＞ 学校・地域のけが／交通事故／犯罪被害／自然災害によるけが
＜調べる場所・場面＞ （　　） 選んだ理由は・・・
＜予想＞　けがや事故を防止する方法
＜調べる方法＞
＜使うスライド＞ A　／　B　／　C

～メモ～

第４時

（１）本時のねらい

○交通事故、学校や地域でのけがの防止や犯罪被害の防止、自然災害から身を守るための行動の課題を見付けたり、考えたけがの防止する方法を友達と伝え合ったりすることができるようにする。【思考力,判断力,表現力等】

○交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には，周囲の危険に気付くこと，的確な判断の下に安全に行動すること，環境を安全に整えることが必要であることを言ったり書いたりすることができるようにする。【知識及び技能】

（２）本時の展開

学習活動	本時において特に焦点化する形成的評価の一例： ◎学びを深めている子供の姿（＋教師のかかわり） ☆配慮の必要な子供への支援 □評価規準
１．前時を振り返り、単元のテーマ、本時の学習内容を確認する。 ２．発表の準備をする。	○単元のテーマを確認し、自分が選んでいない課題についても解決方法を知る必要があることに気付かせる。 ○これまで調べたことを友達と共有することを確認する。
けがを防止する方法を伝え合おう	
３．けがや事故の防止方法を、友達と共有する。 学校や地域でのけがの防止 交通事故の防止 犯罪被害の防止 自然災害から身を守る方法 ２つのグループに分かれて回る。 前半：発表→まわる 後半：まわる→発表	○同課題同士のグループで集まるようにする。 ○前後半に分かれて発表の分担を決める。 ○発表の回り方、聞き方について確認する。 ○一つ以上の課題を調べることができた人は、発表する課題を決められるようにする。 ◎「分かりやすく伝えるために動画をつくりました」「環境を整えることも大事だと思いました」など友達に伝えるためにどのような工夫をすればよいか考えて、発表をしている。 ＋教師のかかわり：「とても分かりやすいね」などの価値付けをしたり「この防止する方法は原因とどうつながっているのかな。」と聞き手に問いかけたりし、発表からより学びを深められるようにする。 ◎「他のグループの防止方法をきいて、自分が調べたことと似ていた」「どのけがも、危ない場所をはじめに知っておくことが大切だと思った」など、比較しながら自分なりにおさえるべき内容をまとめている。 ○養護：ワークシートの正答を確認する。 □思考・判断・表現―①（観察、スライド） □知識・技能③―（観察、ワークシート）
４．けがを防止する方法について整理して、まとめる。 ・危険の予測 ・的確な判断をもとに安全に行動する ・環境整備やルールが必要	◎「交通事故の防止や学校でのけがの防止では環境を整えることが大事だと思いました。」「ルールを守って安全に行動することは、どのけがの防止にも共通していたよ。」など発表を聞いてワークシートにまとめ、けがの防止する方法について共通することを考えている。 ＋教師のかかわり：「すごいところに気が付いたね」と称賛し、「環境を整えること以外にも共通点に気が付いた人はいますか」とより考えを広げていくようにする。
５．振り返りをする。 今日の学習を振り返り、次時への見通しをもつ。	○次時はけがの手当について学習することを予告する。 ◎「友達の防止する方法を聞いて気をつけようと思った」「けがの手当てついても知りたい」など学習したことを振り返り次の学習につなげようとしている。 ＋教師のかかわり：「友達が調べたことを聞いてけがの防止について考えが広まったね」「調べたことを分かりやすく伝えていたね」など学習カードにコメントを記入し、次時の学習につながるようにする。

共有カード

「けがの防止」　　名前

友達の発表を聞いて、分かったことを書くんだリーフ
穴埋め問題に挑戦するリーフ。目指せ！ホケモンゲット！



＜学校や地域でのけがの防止＞

学校や地域でのけがを防ぐためには、身の回りにひそむ（　　）、
し的確な判断のもと（　　）ことが必要です。
学校や地域では、校舎や遊具などの安全点検や、壊れた場所の修理など、
事故やけがを防止するための（　　）が行われています。
ア.安全に行動する　イ.危険を予測　ウ.環境整備　エ.周りに合わせて行動する
オ.危険を発見　カ.ルール作り



＜交通事故の防止＞

交通事故を防ぐためには、ひそんでいる（　　）し、
的確な判断のもと（　　）ことが必要です。
事故を防止するために環境整備や（　　）作りも必要です。
ア.安全に行動する　イ.危険を予測　ウ.環境整備　エ.周りに合わせて行動する
オ.危険を発見　カ.交通ルール



＜犯罪被害の防止＞

ゆうかいや暴力などの犯罪被害にあわずに、安全に生活するためには、（　　）を点検し、
犯罪が起こりやすい危険な場所を（　　）ことが必要です。
犯罪に巻き込まれそうになったら、すぐに助けを求めるなど、
的確な判断のもと（　　）を選ぶことが必要です。
ア.安全な行動　イ.危険を予測　ウ.安全管理　エ.周りに合わせた行動
オ.発見　カ.周りの環境　エ.さける



＜自然災害によるけがの防止＞

自然災害が起こった時には、状きょうを的確に判断し、（　　）、
すばやく自分の身を守る、避難するなどの行動をとることが重要です。
日ごろから、大きな地震が起きたときなどに（　　）・避難できる場所を
確認しておきましょう。
ア.落ち着いて　イ.あせって　ウ.危険な場所　エ.安全な場所



けがを防止するためには

が大切です。

第５時

（１）本時のねらい

○けがをしたときの適切な対処の仕方や簡単な手当の方法を理解するとともに、簡単な手当てを行うことができるようにする。【知識及び技能】

○けがの防止や安全な生活の大切さに気付き、学習したことを生活の中で実践しようとするなど、すすんで学習に取り組むことができるようにする。【学びに向かう力，人間性等】

（２）本時の展開

学習活動	本時において特に焦点化する形成的評価の一例： ◎学びを深めている子供の姿（＋教師のかかわり） ☆配慮の必要な子供への支援 □評価規準
１．単元のテーマ、本時の学習内容を確認する。	○けがをしてしまったときに取るべき行動について考えていくことを確認する。
けがをした時の行動を知り、やってみよう	
２．けがをしたときにどのように行動しているかを確認する。 発問：けがをしたとき、どのように対処して いますか。	◎「ばんそうこうを貼る」「保健室に行く」「大人を呼ぶ」など、自身の過去の経験とつなげてけがの対処について考えている。 ＋養護教諭の関わり：「なるほどそれも大切だね」と価値付けたり、「自分ではなにができそうかな」などと問いかけたりし、けがの対処の仕方をより深く考える学びにつなげる。
３．けがの手当の仕方を考えやってみる。 ・すり傷 ・切り傷 ・打撲 ・鼻血	○養護：けがの簡単な手当を考えさせる。けがの名前を確認する。 ◎自分で調べたことや友達との情報交換などから得たけがの手当てをする方法を考えて、実践している。 ＋養護教諭のかかわり：「とてもすばやくできているね」などの価値付けをし、「この場合はどうするといいかな。グループで考えてみよう。」など、より学びを深められるようにする。
４．正しいけがの手当の方法を知り、実際にやってみる。	○養護：けがの簡単な手当の正しい方法を提示する。 ☆手当のやり方が分からない子供には、「教科書にはなんて書いてあったかな」など、具体的な方法を調べられる問いかけをする。
５．大きなけがの場合の対処法について、考える。 ・頭を打った場合 ・意識がない場合 ・救急車を呼ぶ場合	◎外傷の有無、意識の有無によって、対応が異なることに気付き、大きなけがの場合は、どのように対応するのが最善か考えている。 ◎いつそうした場面に直面してもよいように、AED の場所や救急車の呼び方について、具体的にイメージしている。 □知識・技能―③（観察、ワークシート）
６．自己の生活を振り返り、課題を見付け、解決方法を考える。	◎「学んだことを生かしてけがをしないようにしたい」「けがをしたとしても、自分で手当てをできるようにしたい」など、学習したことを振り返り、次の学習につなげようとしている。 ＋教師のかかわり：「これからの生活に生かしていこう」など振り返りカードにコメントを記入し、学習のまとめにつながるようにする。 □主体的①（ワークシート）

けがの防止アンケート

1 けがをしたことはありますか
①したことがある　②したことがない

2 けがをして困ったことはありますか
①ある　②ない　③けがをしたことがない

3 けがを防止するための方法をしっていますか
①知っている　②少し知っている　③あまり知らない　④知らない

4 けがを防止するために気を付けて生活していますか
①気を付けている　②少し気をつけている　③あまり気をつけていない　④気をつけていない

5 けがをする原因は、人の行動と(　　)が関わっている。
①天気　②まわりの環境　③運　④わからない

6交通事故の防止、原因
交通事故の原因には人の行動やまわりの環境が大きく関わっています。
けがの原因となった人の行動、まわりの環境にあてはまるものを選びましょう。

遊びにいくのをとても楽しみにしていたので、うれしくて①スピードを出しすぎてしまいました。すると、②「止まれ」の標識があったのでブレーキをかけました。そしたら、ちょうど③地面に水たまりがあって、④タイヤがスリップしてバランスをくずして転んでしまいました。

人の行動
①スピードを出しすぎて　②「止まれ」の標識　③地面に水たまり　④タイヤがスリップして
まわりの環境
①スピードを出しすぎて　②「止まれ」の標識　③地面に水たまり　④タイヤがスリップして

7交通事故の防止　安全な行動
道路を歩くときや、自転車に乗っているとき、交通事故から身を守るための適切な「人の行動」はどれでしょう。
①道路を横断するときは、一時停止をして左右の安全確認をしっかり行う。
②歩行者用の青信号が点滅し始めたら、車は必ず止まって待ってくれるので、急いで走って渡りきる。
③「止まれ」の標識があっても、車が来ていなさそうならブレーキをかけずに通り過ぎる。
④夕暮れ時はまわりから見えにくくなるので、できるだけ道路の真ん中の、車のライトがよく当たる明るい場所を歩くようにする。

8学校での安全な行動
学校の中（廊下、階段、運動場など）でけがを防ぐために、適切な「人の行動」はどれでしょう。
①授業に遅れそうになったときは、まわりにぶつからないように「安全に気をつけて」廊下を小走りで急ぐ。
②周囲の状況をよく見て、危険に早く気付き、的確な判断の下に安全に行動する。
③階段を降りるときは、いつでもすばやく動けるように気を付けながら、階段を駆け下りる。
④友達と遊ぶときは、けがをさせないように「お互い納得したルール」をその場で決めて遊ぶ。

9学校の安全な環境づくり

学校での事故やけがを防ぐために、みんなで取り組む「安全な環境づくり」にあてはまるものはどれでしょう。

①壊れている遊具や、割れそうな窓ガラスを見つけたら、友達が近づかないように自分たちだけで修理したり補強したりする。

②廊下に掃除用のバケツが置いてあったら、よけやすいように、その横に目立つ明るい色で目印をつけておく。

③危険な場所がないか点検し、校舎や遊具などの施設・設備を安全に整えておく。

④けが人が出た時のために、保健室の絆創膏や消毒液の場所をいつでも自分たちで使えるように覚えておく。

10 地域での水の事故防止、安全な行動

川や池、海などの近くで、水の事故から身を守るために最も適切な「人の行動」はどれでしょう。

①雨が降った後で川の水が増えて心配なときは、様子を見に土手の近くに行く。

②「立ち入り禁止」と書かれた看板や柵があっても、おもしろそうなら入って遊ぶ。

③水遊びや水泳をするときは、決められた「心得」を必ず守り、体調や天候に気をつける。

④準備運動をしないで、すぐに深いところへ飛び込んで泳ぎ始める。

11 犯罪被害の防止、原因

怖い思いをしたり、危険な目にあったりした「原因」にあてはまるものを 2 つ選びましょう。

学校の帰り道に近道をしようと思って、①一人で人通りの少ない裏道を歩いて帰りました。そこは、②空き家や高い草むらが多く、まわりから見えにくい場所でした。後ろから知らない人が近づいてくる気配がしたので、すぐに ③防犯ブザーを手に持っていつでも鳴らせるように構えましたが、怖くなって走ったときに ④持っていた荷物を落としてしまいました。

①一人で人通りの少ない裏道を歩いて帰りました

②空き家や高い草むらが多く、まわりから見えにくい場所

③防犯ブザーを手に持っていつでも鳴らせるよう

④持っていた荷物を落としてしまいました。

12 鼻血が出た時の正しい手当ての仕方はどれですか?

①首の後ろをたたく　②上をむいて血が垂れないようにする

③下を向いて小鼻をつまむ　④わからない